

セーブ・ザ・チルドレン まなび・体験ファンド第3回 募集および採択の状況

まなび・体験ファンドとは

子ども期に、学習に限定されない幅広い「まなび」や豊かな体験活動を経験することは、子どもの主体性や社会性を高めたり、心身を育んだり、自己肯定感を培ったりする上で重要です。しかし今、物価高騰、相対的貧困の拡大などの影響もあり、子どもが日常から離れた場で未知の体験をしたり、さまざまな大人や友だちと触れ合い、多様な人間関係を持ったりする機会が減っています。特に、経済状況をはじめさまざまな困難が伴う世帯などにおいてその傾向が際立っています。

このような状況を踏まえ、セーブ・ザ・チルドレンは、子どもに向けてまなび・体験の機会を提供する地域の非営利団体を応援する「セーブ・ザ・チルドレン まなび・体験ファンド」を2023年より実施しています。長期休みがあり体験機会の差が生まれやすい夏の時期に、子どもたちが遊びや活動、新しいもの、未知のものに触れたり、まなんだりする機会をより多く実現し、子どもの育ち、まなび、遊び、参加などの基本的な権利が守られることを目指しています。

ファンド概要

日本国内の子どもたちに向けてまなび・体験の機会づくりに取り組んでいる地域の非営利団体を対象に、事業実施のための資金助成と、団体の活動において関係者による虐待や搾取など、子どもの権利に反する行為や危険を防止し、子どもにとって安心・安全な活動を進めるための「子どものセーフガーディング研修¹」を行います。

対象となる事業

子どもが遊び・活動や、新しいもの・未知のものに触れたり、まなんだりすることで、子どもの権利保障が期待される事業を募集します。ここでの「まなび・体験」は、広い意味で使っており、「学習」の場に限定しません。その中でも特に、子どもが保護者の経済状況、障害の有無、言語的障壁などによって参加の可能性を阻まれることなく、平等にまなび・体験の機会を得られる企画となっていることを重視します。

¹ 質の高い組織と事業づくり「子どものセーフガーディング」|セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンについて|セーブ・ザ・チルドレンとは|セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
(https://www.savechildren.or.jp/about_sc/quality1.html)

第3回の実績

- 助成事業の実施期間：2025年7月1日～10月31日
- 助成対象団体：特定非営利活動法人（NPO法人、認証・認定）、一般法人（非営利型）、公益法人、社会福祉法人、任意団体などの非営利団体
- 助成金額：1件あたり50万円～150万円
- 審査方法：5月にセーブ・ザ・チルドレン内部の審査員による書類審査および審査会を行いました。
- 採択団体：6団体（ABC/五十音順）※事業概要、採択理由などについては文末の表をご参照ください。
 - 特定非営利活動法人 奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」
 - 特定非営利活動法人 絵本カーニバル
 - 特定非営利活動法人 くすの木自然館
 - 特定非営利活動法人 子どもシェルターおるき
 - たかつき保養キャンプ・プロジェクト
 - 特定非営利活動法人 たねの会

第3回申請案件全体の傾向

2025年2月28日から4月13日の申請期間に、前回より12件多い、54件の申請がありました。事業分野別に見ると、文化活動、野外体験の申請が多く、次いで学習支援や講演会などが続きました。そのほか、スポーツや交流などの申請もありました。

前回に引き続き、子どもが保護者の経済状況、障害の有無、言語的障壁などによって参加の可能性を阻まれることなく、平等にまなび・体験の機会を得られる事業となっていることを最も重視しました。申請ではひとり親世帯、疾病や障害のある、社会的養護下にある、不登校である、離島や過疎地在住であるなど、さまざまな状況の子どもを対象とした計画が寄せられました。

特に、社会的養護下にある子どもの体験の機会創出が難しい現状や、長期療養している子どものまなび支援の必要性、また障害や疾病などがあっても子ども自身のやりたいことを尊重し叶える取り組み、多様なまなびのあり方の実践など、子どものまなび・体験の機会を保障するうえで、重要な視点や示唆に富む申請を多数頂きました。一方、課題の捉え方や説明の詳細さ、課題への対応策の具体性および説得性については、申請団体によって差が見られました。

審査講評

取り残されがちな子どものまなび・体験を保障しようとする意欲的な申請を、全国から数多く寄せていただいたことに御礼を申し上げます。申請数が増加傾向にあること、また体験機会が得られにくい子どもの状況に目を向けた多様な事業が計画されていることから、子どものまなび・体験の機会を保障することの重要性が理解され、取り組みが広がってきていることを感じました。

審査においては、子どもは守られるだけの存在ではなく、自分の意思や考えを持っており、それが尊重されるべきであるという、子どもを権利の主体と捉える考え方が根底にある事業が評価されました。また、募集要項などで示した通り、機会の平等を最も重視しました。特に取り残されがちな子どもの状況が的確に把握され理解されているか、参加障壁を取り除くための計画があるか、などの点に留意して審査を進めました。結果、まなび・体験の機会を得

にくい子どもや保護者の状況と課題を具体的に捉え、情報を確実に周知する工夫がある事業や、体験活動参加への心理的・経済的障壁を取り除く具体策が計画されている事業がより高く評価されました。

さらに、子どもの声が聴かれ、事業へ反映する計画がある事業も高く評価されました。一方で、大人から子どもへの働きかけに留まる事業などは採択に至りませんでした。子ども参加を実現するためには、子どもの安心・安全を確保した上で、子どもの意見が事業に反映される環境がつくられていることが望まれます。これは子どもの権利保障を推進するセーブ・ザ・チルドレンが留意する点でもあり、引き続きこの観点で十分に考えられた事業がより増えることを期待しています。

最後に、子ども支援や子どもとともに行う活動を実施する際は、組織的かつ計画的なリスク対策が必要です。事故や災害対策などの安全確保に留まらず、関係者による虐待や搾取など、子どもの権利に反する行為や危険を防止し、安心・安全な活動と運営を目指す組織的取り組みを「子どものセーフガーディング」と言います。採択如何に関わらず、このファンドを通じて、より多くの団体がこの取り組みに触れ、活動の場に取り入れていただけることを願ってやみません。

助成先団体・事業 採択理由一覧(ABC/五十音順)

事業名	自己肯定感を高める大阪体験旅行
団体名	特定非営利活動法人 奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」
参加者募集地域	鹿児島県奄美市
事業実施地域	大阪府大阪市
事業概要	離島の自立援助ホームで暮らす子どもが、島外への旅行を行う事業。旅行は外の世界との出会いとともに、さまざまなまなびが得られる体験であるが、自立援助ホームで暮らす子どもの自由な旅行を公的資金から工面することは難しい。また地理的に隔てられた離島では、島外への旅行は高額の支出となり機会をつくることはさらに難しい状況にある。本助成金を活用し、子ども自身が行程の計画、旅行、振り返りを行う。
事業期間	2025年9月11日～10月31日
助成額	666,312円
選定ポイント	社会的養護下の子どもの体験機会の保障は、本ファンドで目指している機会の平等を重視する視点として非常に重要である。これから社会に出るという時期や、地理的制約による体験機会の得られにくさという課題も重要であり、助成の必要性が大きい。事業計画が子どもの主体性を尊重した内容であることも評価された。

事業名	病気療養する子どもへの体験支援事業
団体名	特定非営利活動法人 絵本カーニバル
参加者募集地域	島根県出雲市、栃木県下野市、埼玉県さいたま市
事業実施地域	島根県出雲市、栃木県下野市、埼玉県さいたま市
事業概要	長期にわたる入院や療養をしている子どもに、医療現場において、絵本などを用いた体験プログラムを実施する事業。治療のために制限のある日常を送る子どもが絵本との出会いや表現活動を体験することで、感受性や興味関心を育み、医療とは異なる角度から心身の成長を支援することを目的とする。また、入院に伴う子どもや保護者の孤立感の緩和、病棟での生活に変化をもたらすこと、さらに病院側が安心して受け入れられる活動モデルの構築も目指す。
事業期間	2025年7月1日～10月31日
助成額	1,500,000円
選定ポイント	病院・病棟が日々の生活や成長の場である長期療養を行う子どもにとっても、まなびや体験の機会の保障は重要である。感染症などの影響により、病棟内での医療関係者以外による活動が制限される中、安全で意義ある文化活動として継続実施している実績を評価した。また団体が活動対象病院を選定する際、病児支援ボランティアが不足しているなど、より支援が届きにくい病院を優先していることも、体験機会の平等性確保という観点から重要である。

事業名	「誰もが諦めない海」を一緒に!重富ユニバーサルビーチプロジェクト
団体名	特定非営利活動法人 くすの木自然館
参加者募集地域	鹿児島県全域
事業実施地域	鹿児島県始良市・鹿児島県薩摩川内市
事業概要	自然体験や環境教育を実施する団体による、障害や疾病のある子どもの海遊びを支援する取り組み。子ども自身の「やりたい」気持ちを尊重し、どうすれば実現できるかをともに考え、支援体制をつくり、安心して海を楽しめる環境を整える。事業を通じて支援者育成も進めることにより、障害などの有無に関係なく平等に自然体験ができる場を広げていく。
事業期間	2025年7月1日~9月21日
助成額	1,500,000円
選定ポイント	障害や疾病のある子どもが自分らしく海遊びができるようサポートするプロジェクトとして評価。子どもの主体性を重んじる本取り組みそのものが、子ども参加の実践と言える。また個別の状況に応じて、外部専門機関とも連携し、子どもの希望と安全管理を踏まえた自然体験を行う実行力も優れていると捉えた。

事業名	シェルターに暮らす子どもに万博で、まなび・体験の機会を!プロジェクト
団体名	特定非営利活動法人 子どもシェルターおるき
参加者募集地域	高知県
事業実施地域	大阪府大阪市
事業概要	親権者からの虐待などによりシェルター(「自立援助ホーム」の類型として運営)に暮らしている子どもの、まなびや体験の機会を創出する事業。養育環境によってまなびや体験の機会を得られにくかった子ども自身が、計画や準備、振り返りを主体的に行うことを通じて、未知の世界にふれ、自己肯定感や社会性、経済観念などを育むことを目指す。スタッフが寄り添い、子どもの意見表明の権利および機会を保障することで、安心してまなびと挑戦ができる環境を整える。
事業期間	2025年7月20日~10月31日
助成額	1,203,840円
選定ポイント	社会的養護下にある子どもの体験の機会の保障は、権利保障の観点から非常に重要である。子どもの状況や声を尊重する姿勢や、心理面のサポートなども充実していることも高く評価した。社会的養護下の子どもたちが自立に向かう時期に、団体が体験の機会をつくり、自己決定権の尊重や自己肯定感の向上を目指そうとしている動きを応援したい。

事業名	第10回たかつき保養キャンプ
団体名	たかつき保養キャンプ・プロジェクト
参加者募集地域	東日本大震災・原発事故被災地
事業実施地	大阪府高槻市
事業概要	福島第一原発事故の影響を受けた子どもと保護者の心身の健康を守り、不安に寄り添うことを目的に保養キャンプを実施する。本事業では、経済的困難などにより、これまでキャンプ参加の機会が得にくかったひとり親世帯の子どもと保護者を主な対象とし、体験活動を実施する。
事業期間	2025年7月25日～7月29日
助成額	898,140円
選定ポイント	福島第一原発事故以降、保養キャンプを継続的に実施してきた団体が、経済的困難などのある世帯の子どもがキャンプ参加の機会を得にくいことに着眼し、より積極的に取り残されがちな子どもを対象にした取り組み。子どもの権利の視点があること、また多様な専門機関やひとり親世帯支援団体との連携が計画されている点も評価した。

事業名	まちに飛び出せ!人・自然・社会とつながる、こども発のワクワク体験活動
団体名	特定非営利活動法人 たねの会
参加者募集地域	埼玉県さいたま市・埼玉県春日部市など
事業実施地域	埼玉県さいたま市、埼玉県春日部市、静岡県
事業概要	学校制度外で育つ子どもが、体験・発信・交流をする事業。子ども自身の興味のある場所への訪問や、イベントの企画実施、自然体験合宿の実施を通して、自己肯定感を育むとともに、主体的なまなびと成長を促すことを目的とする。 また活動の発信によって、不登校に対する偏見をなくし、多様なまなびの在り方や生き方について理解を広げていくことを目指す。
事業期間	2025年7月1日～10月31日
助成額	955,300円
選定ポイント	子どもの権利の視点に基づいた活動を行っていることに加え、不登校の子どもへの体験のみならず、地域社会に残る不登校への差別・偏見の眼差しを変えることも目的としていることは重要である。子ども参加および子どものセーフガーディングについて、団体において理解と実践が進んでいることも評価した。

以上